

# 学校図書館支援センター通信 NO.136 9月号

令和元年度 市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）



## 令和元年度 夏季研修会！ 司書教諭研修会&第2回学校図書館研修会



7月23日（火）は、司書教諭を対象とした司書教諭研修会が行われ、7月30日（火）は、市内小・中・義・特別支援学校の司書教諭と学校司書、幼稚園のネットワーク担当の先生方を対象に「第2回学校図書館研修会」が行われました。学校図書館研修会の午前の部では、市川市立行徳小学校 常勤学校司書 高桑弥須子さんより「学校図書館の蔵書について」お話を伺った後、校種別のグループに分かれて「自校の選書について」の情報交換を行いました。午後の部は、昨年度に引き続き、帝京大学 教授 鎌田 和宏先生を講師にお招きしご講演いただきました。

### 鬼高小学校 3年生 研究授業 国語科「生きものくらべっこ図かんをつくろう」

鬼高小学校の研究主題は「自分の考えを豊かに表現し、学び合う子供の育成 ～図書館を活用した国語科研究を通して～」です。7月11日（木）、司書教諭 川口麻衣子先生が行った研究授業の様子をご紹介します。今回は、学校図書館にて授業が行われ、常勤学校司書の太田和順子さんと一緒に授業を展開していました。



児童と一緒に資料をさがす学校司書

本単元のねらいは、図書資料を用いて昆虫の特徴の情報を集め、集めた情報をもとに説明文を書くことです。そのためには、情報収集の方法、集めた情報の取捨選択の仕方、情報のまとめ方など情報を活用する上で必要なスキルを指導していくことが求められます。そこで、今回は、単元の事前学習として、授業参観を利用して、親子でポプラディアの使い方を学習したそうです。こうした事前指導があったので、百科事典を使って言葉を調べる児童、言葉の意味を国語辞典で調べる児童など様々な図書資料を用いて、情報を集めることができていました。また、高学年に向けて、一人一人の選書の力をつけるために、必要な図書資料は、児童自ら書架へ行き、選ぶようにしていました。こうした積み重ねを通して、高学年になる頃には、テーマに合った図書資料を自ら選ぶことができるようになるのだろうと感じました。

本時では、一人1テーマで調べ学習を行い、自分のテーマに合わせて必要な情報を集め、情報カードに書き写していました。図書資料には、情報を共有するための付箋が貼られており、図書資料を見つけることができない児童のヒントになっていました。どの子どもできるように様々な手立てが考えられた実践でした。



学級で作成した図鑑に  
バーコードシールを貼  
って図書館に置いてあ  
りました。

ネットワーク便で集めた他校からの図書は、取りやすいように平置きにして、自校の図書は、書架から選べるようにしていました。



学校司書によるブックトークで紹介された本



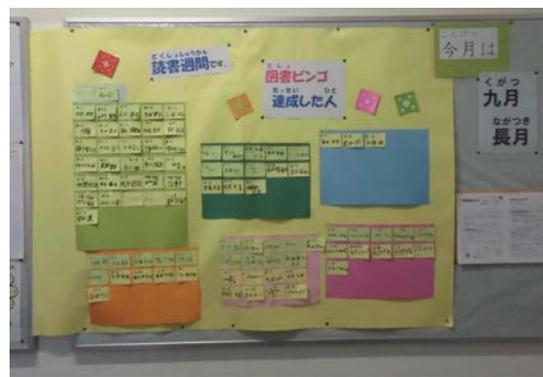
### 図書館の窓から ~ひろげよう！図書館の輪・リレー執筆~

若宮小学校では、本好きな子どもにするために、昨年度より四中ブロックで「共通のおすすめ図書を読もう！」という目標をかかげ、おすすめ図書のリスト（ベスト20）を作り推奨しています。また、6月や11月の読書週間では、読書ビンゴ、読書マラソンなどを行い、たくさんの本を読むように勧めます。ゴールすると、しおりなどのごほうびがあるので、子どもたちはとても意欲的に本を読み、ごほうびを獲得していました。

昨年は「先生のおすすめの本」の掲示が好評で、紹介された本はとても人気が出ました。

こういったイベントや読み聞かせなどの日頃の積み重ねで、「子どもの本を楽しむ心」が育っていくことを願って、日々活動しております。

【市川市立若宮小学校 学校司書 石川 由】



### 司書教諭研修会 ~教師こそ探究型スキルを身に付けよう~

~7月23日~

#### 調べる学習のスキルのポイント

- 1 一人調べが原則
- 2 テーマ（問い）を設定するためには、予備知識が必要。
- 3 テーマ（問い）は、資料が見つかったから決め、テーマ（問い）は疑問文にする。
- 4 グループ交流を随時実施。
- 5 「情報カード」と「利用図書リスト」の活用  
(小林先生作成研修会資料より)

市川市学校図書館アドバイザー 小林 路子先生を講師にお招きして、「紙芝居型 プレゼンカード」作りの演習を通じた研修会を行いました。司書教諭は、学校司書と連携を図りながら、学校全体を動かす組織力が必要であるというお話が冒頭にあり、司書教諭の役割を再確認してから研修が進んでいきました。学校図書館を活用することで、「言語力」と「情報活用能力」の育成が期待できますが、今回は「情報活用能力の育成」を図るための「調べ読み」の基本を教えてくださいました。中でも「課題の設定力」の育成は大切であり、「問い」を立てる力を鍛えるためには、授業等で指導をしていかなければならないというお話がありました。また、学校図書館活用は、短時間で計画的に行うことがポイントであるとおっしゃっていました。教師が探求型スキルを身に付けることで、授業構想力が高まっていくそうです。

### 第2回学校図書館研修会~7月30日~

#### 「情報教育と学校図書館」

講師：帝京大学 教授 鎌田和宏 先生

「情報教育」と聞くとICTの活用を思い浮かべる方が多いかと思いますが、情報教育とは、児童生徒の情報活用能力の育成を図るものであるというお話がありました。また令和元年6月28日に「学校教育の情報化の推進に関する法律」、「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）」が公布・施行され、学校図書館における図書資料の種類もデジタル資料が含まれる等、社会の流れが変わりはじめているということを教えてくださいました。今後さらに、情報担当者と学校図書館担当者同士が連携を図りながら、系統性のある情報教育について考えていくことが大事になるとおっしゃっていました。最後に、情報活用能力の基盤は「読む」ことに慣れることであり、楽しむための読書や知識・情報を得るための読書の両面から「生き方を育てる読書」へとつなげることが大切であることを教えてくださいました。

#### 中学校ブロックごとに考えた 情報教育のキャッチコピー

- ① 図書館が情報提供の場
- ② 調べる・まとめる・発信する
- ③ 収集・活用・モラル
- ④ 探す・捨てる・使う
- ⑤ 調べる+ときどきメディアリテラシー
- ⑥ 調べ学習とモラル
- ⑦ 新聞活用
- ⑧ あふれる情報から何を！
- ⑨ 情報教育と図書館教育の連携
- ⑩ SGK（調べ学習の拠点）
- ⑪ 右（PC）も左（本）も情報教育
- ⑫ ゆりかごから登場まで  
~すべてに関わる学校図書館~
- ⑬ 系統性
- ⑭ タイムリーな情報教育  
（いつでも・どこでも・だれでも）
- ⑮ 資料の収穫&活用

### 「学校図書館の蔵書について」~高桑先生のお話~

「向日性植物にも暗闇が必要であるように、社会的動物である人間にも『一人の時間』が必要です。読書はその時間であり、自分自身と対話することができます。また、情報だけが玉石混交に浴びせられる時代、全体像をイメージする力が一層重要です。物語はその力を養います。選書については、その時の人気やニーズにこたえるだけでは破綻します。学校図書館蔵書は背表紙によって、今の社会のありようを示すものです。蔵書を考える上で、理想を追求し、子供を知り、教育課程を知り、本を知り、仲間と本について語り合っていくことが大切です。」というお話をうかがいました。



「食わず女房」の語りから、お話がスタートしました。

『学校図書館支援センター通信』は、市川市教育センターホームページでもご覧いただけます。

市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）

〒272-0015 千葉県市川市鬼高1-1-4

TEL 047-320-3335 FAX 047-320-3352

http://www.ichikawa-school.ed.jp/index.html

